

宮田直彦のエリオット波動レポート

マーケット見通し(短期アップデート) 8月23日 11:55 AM 更新

[日経平均]

【当面の想定レンジ】 35,800~40,000 円

[NY ダウ]

【当面の想定レンジ】 32,000~41,500 ドル

[ナスダック]

【当面の想定レンジ】 14,500~18,700

[米ドル/円]

【当面の想定レンジ】 137.000~151.000 円

[ドルインデックス(ドル指数)]

【当面の想定レンジ】 99.578~108.350

エリオット波動とは

株式・為替動向を予想する心強いテクニカル手法

米国人ラルフ・ネルソン・エリオットが提唱した、今後の株式や為替など市場価格の動向を予想する手法です。相場は5つの上昇波と3つの下降波（合計8つの波）で一つの周期を作るパターンに従って展開するとされます。

このパターンは集団心理によるもので、数分から数十年といった様々な時間軸において観察されます。

フィボナッチ数列、黄金分割比率をチャート分析に初めて導入したのもエリオットです。

日経平均



【週足・エリオット波動分析】

42,426 円(7/11 高値)以来の第(4)波(インターミディエイト級)中 A 波は、31,156 円(8/5 安値)を以て終わったとみられます。それは 20 年 3 月以来の 4 年サイクル底に相当します。

8 月 5 日安値からの上昇が、第(4)波中 B 波に当たるのか、第(5)波による上昇に入ったかを判断するには少し時間が必要です。ただいずれにしても、**25 年に日経平均は 42,426 円を上抜き、最高値を更新する可能性が高い**、とみています。

8 月 9 日申し込み時点で、信用買いの評価損率は 4 年 5 カ月ぶり水準(マイナス 14.15%)に悪化しましたが、翌週 16 日申し込み時点ではマイナス 8.38%へ改善しました。

ちなみに半導体、テック、自動車などの主力株には、2 月～4 月に高値を付けたものが目立ちます。それら銘柄に対し、6 カ月信用期日接近に伴う売り戻し圧力が残る**今後 1～2 カ月は、日経平均も上値追いとはなりづらいでしょう。**

ただしその先の、信用整理売りが一巡する**9 月～10 月からは、年末に向けて強い基調を期待できそうです。**



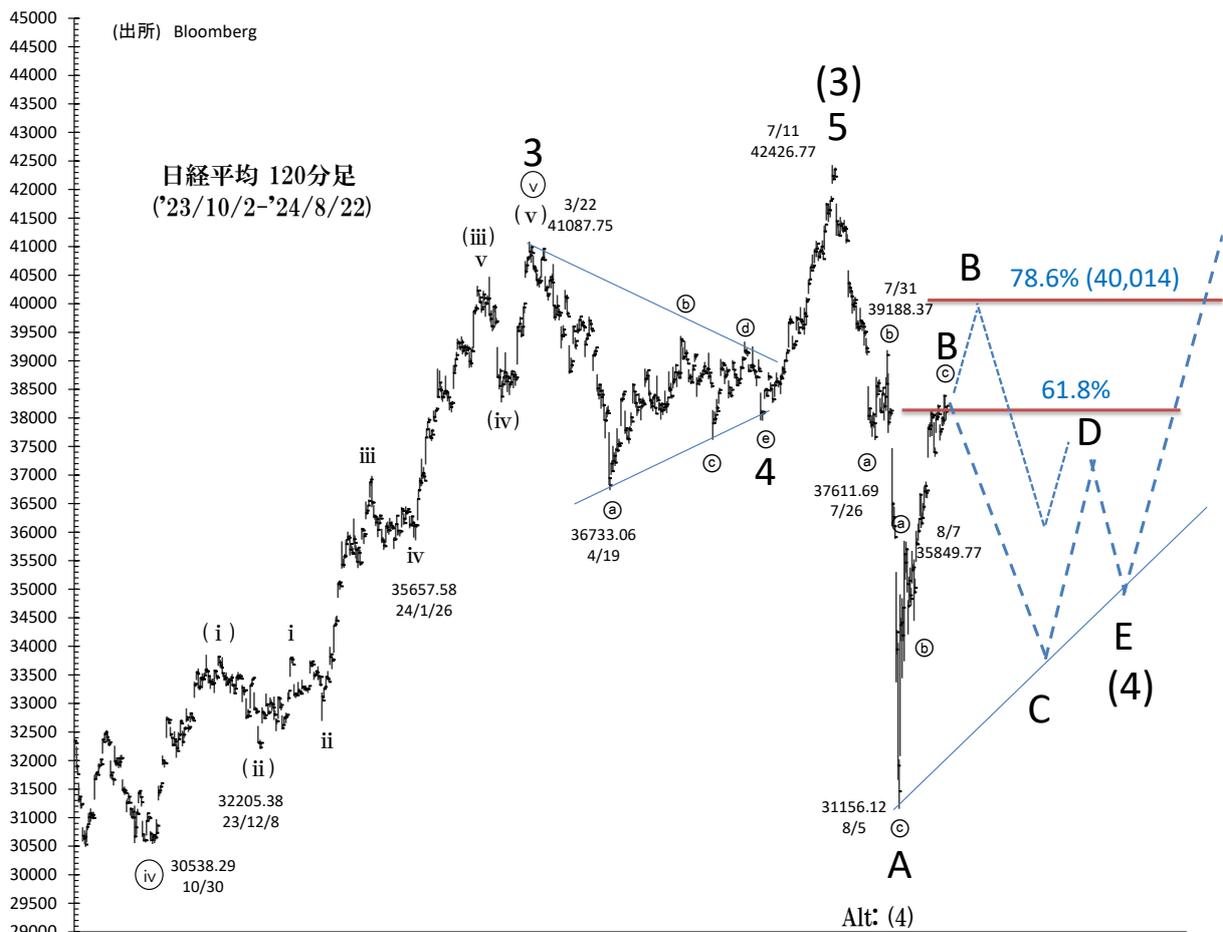
【日経平均 日足・エリオット波動分析】

日経平均予想 EPS は 8 月 22 日に 2450.99 円に増え、初の EPS=2500 円が視野に入っています。EPS2500 円、PER18 倍と仮定した際の日経平均は 4 万 5000 円です。この水準は 25 年のターゲットとして注目に値します。

足元の日経平均は 200 日 MA を上回りましたが、7 月からの下げ幅に対する 61.8%戻り水準[38,121 円]でいったん動きが止まりつつあるようです。

短期的には、100 日 MA と 200 日 MA※の間のレンジを形成しながら、次なる動きのきっかけ待ち、と思われれます。

※100 日 MA…38,674 円、200 日 MA…37,158 円(8/22)



【日経平均 時間足・エリオット波動分析】

上チャートは、31,156 円(8/5 安値)以来の第(4)波が[トライアングル]になる、という仮説に基づいた当面の展開イメージを示しています。

8月22日の日経平均の日中高値(38,408円)と終値(38,211円)は、7月からの下げに対する61.8%戻り水準のチャート節目[38,121円]と、8月16日の高値(38,143円)のいずれも上回りました。

一方でTOPIXはこの日、日経平均ほどは上がっていません。

TOPIXが8月1日～2日のマド埋め(2684.91)を終値でも果たしたなら、日経平均も戻り歩調を強めるでしょう。この場合、B波の上値はさらに伸びて、39,188円(7/31高値)や[40,014円](7月からの下げに対する78.6%戻り)などを試す可能性があります。

B波を完了してからはC波の下げに入るとみられます。それはB波による上昇分の50%～61.8%を打ち消す動きになるでしょう。



【NY ダウ時間足・エリオット波動分析】

23年10月安値・32,327ドルからの上昇は、Y波に位置付けられます。それは(a)-(b)-(c)[ジグザグ]を形成しています。37,611ドル(4/18安値)からは(c)波とカウントできます。

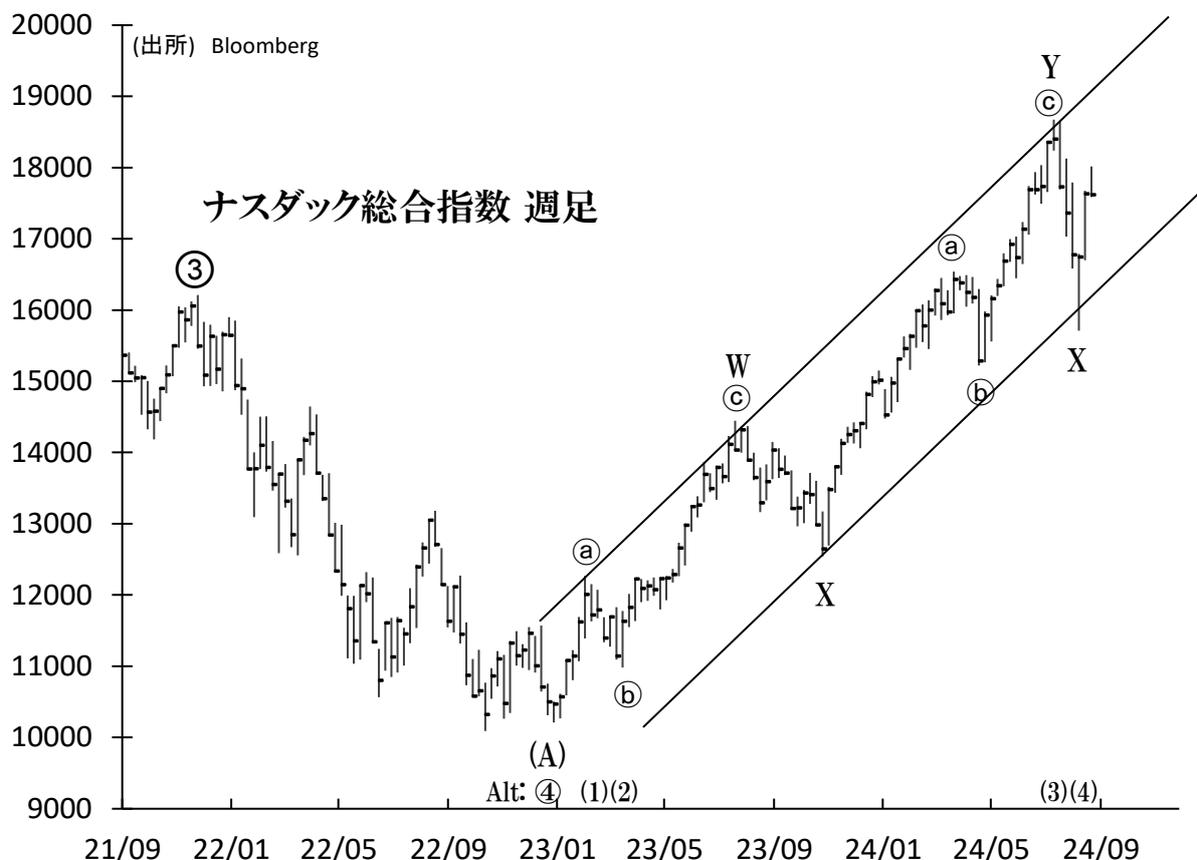
23年10月～24年3月までの上昇(a)波が、一貫して上昇する、シンプルな形状であるのに比べ、(c)波は波の重複が目立つチョッピー(choppy)な形状となっています。これは(c)波が[エンディング・ダイアゴナル]を形成していく可能性を示唆しています。

そうだとすると38,499ドル(8/5安値)からは、(c)波中第iii波の上昇とみることができます。この(c)-iii波によりNYダウは41,376ドルを上回り、最高値を更新する可能性が高いでしょう。

その後は(c)-iv波、さらに(c)-v波と続いていき、Y波全体が完了します。

Y波完成までには今後まだ数カ月から半年かかるとみられますが、この前提からみれば、NYダウのピークアウト時期は今年よりも来年になりそうです。

ナスダック



【ナスダック総合指数週足・エリオット波動分析】

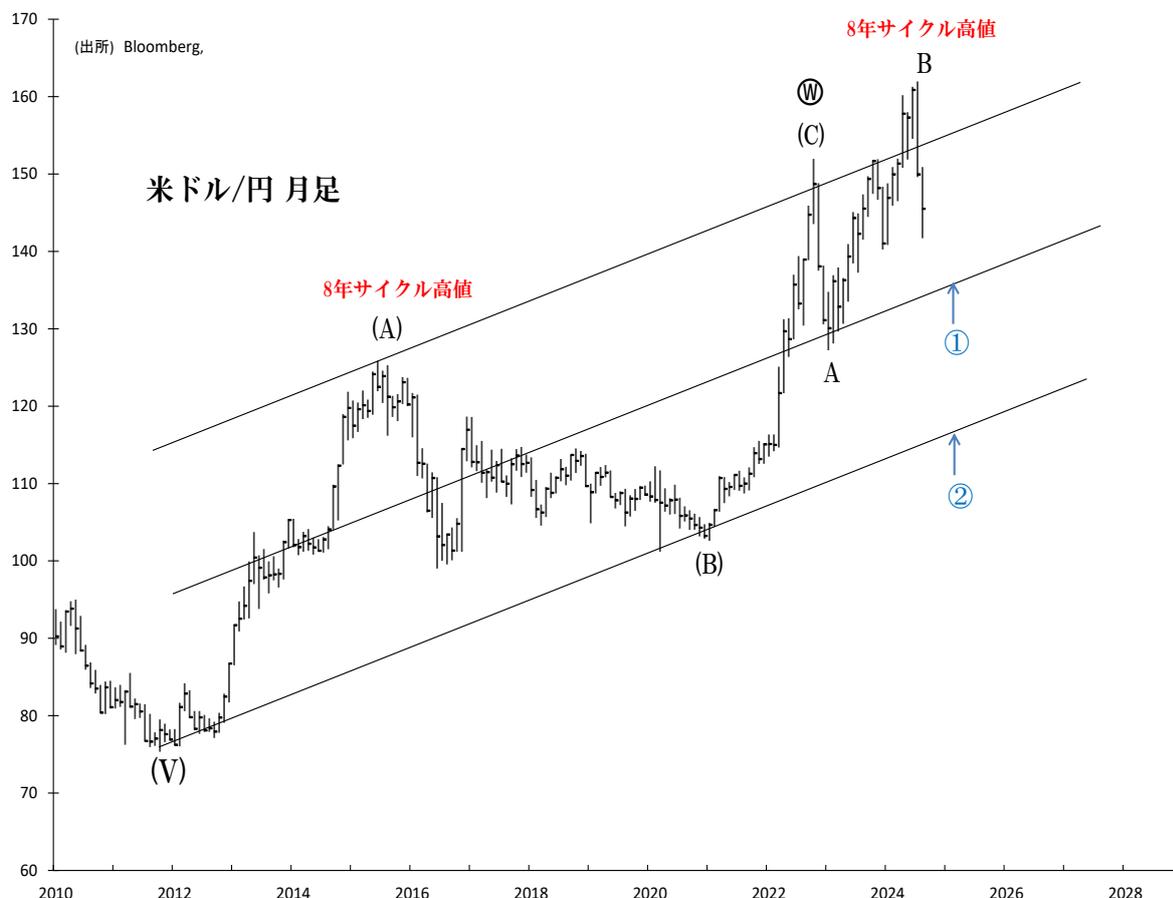
22年12月安値(10,207)以来、(B)波による上昇が進行中です。この(B)波は[トリプル・ジグザグ(W-X-Y-X-Z)]を形成し、それは25年前半まで続くでしょう。

15,708(8/5安値)からはZ波の上昇に相当し、Z波のパターンは[ジグザグ(a-b-c)]です。このZ波によりナスダックは最高値を更新する可能性があります。

8月22日にナスダックは一時18,017まで上昇しました。この水準は、7月からの下げに対する76.4%戻り水準[17,971]に近似となっています。短期的に8月14日-15日のマド[17,260-17,375]への調整があるかもしれませんが、上昇基調は継続するでしょう。

ただし筆者の見通しと異なり、15,708を一時的にも下抜くようなら弱気シナリオが復活します。それは、18,671(7/11高値)を以て(B)波は完成しており、既に(C)波による下落トレンドに入っている、というものです。

米ドル/円



【月足・エリオット波動分析】

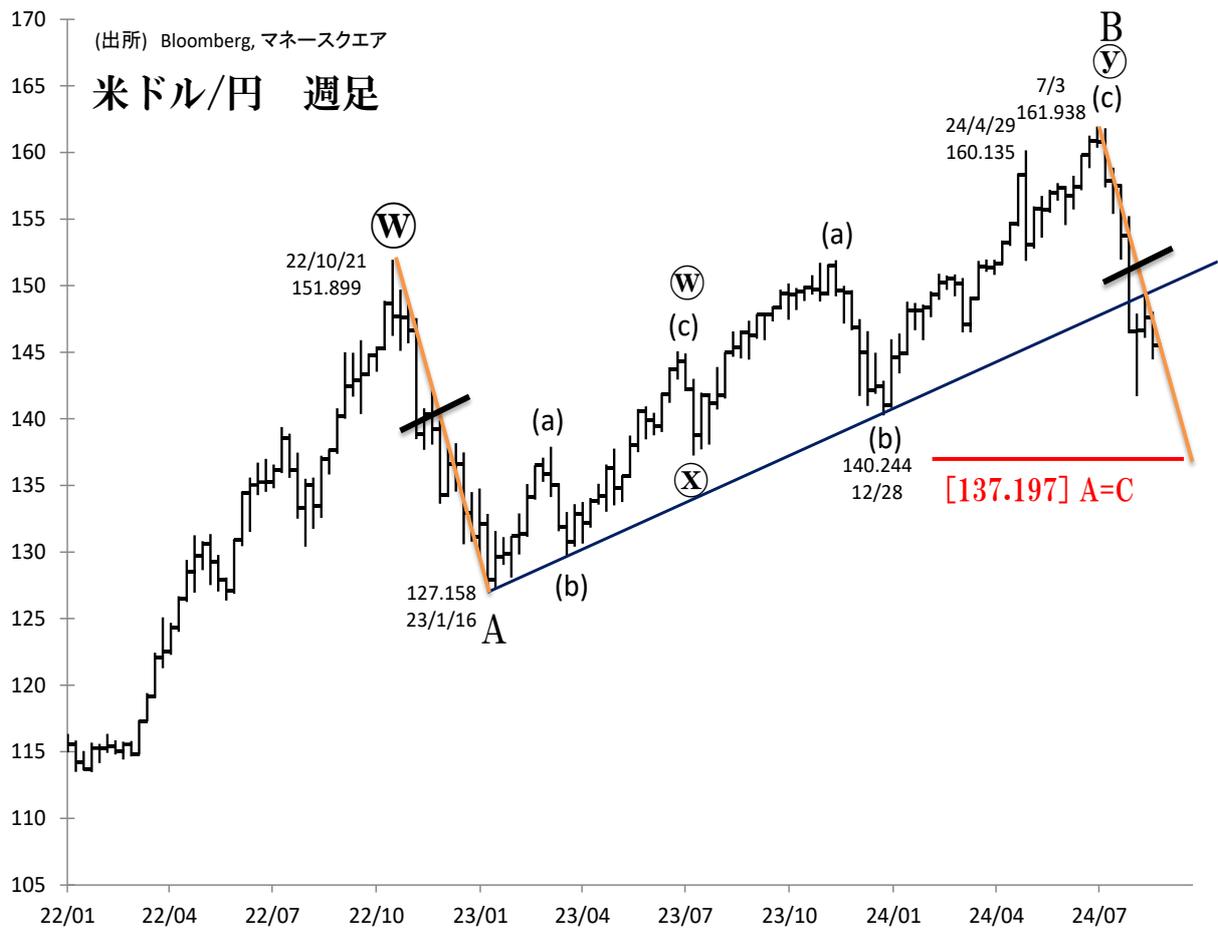
2011年10月の75.570円以来の(A)-(B)-(C)[ジグザグ]による円安Ⓜ波は、151.899円(22/10/21)を以て終わり、そこからはⓍ波の「円高局面(トレンドではない)」が進行中です。このⓍ波により米ドル/円(ドル/円)は、2028年4月頃までレンジ相場を形成していくでしょう。

161.938円(7/3)は、15年6月・125.860円から9年目に付けた「8年サイクル高値」とみられます。それは波動カウント的に、Ⓧ波中 B 波高値(イレギュラートップ/不規則天井)に位置付けられ、このカウントによれば、いまはⓍ波中 C 波によるドル安・円高が進行中です。

22年10月以来のⓍ波が描くパターンとして大きくは、①[ランニング・トライアングル]、②[エクспанディッド・フラット]、これら二通りの可能性があります。

①の場合、現行 C 波は A 波安値(127.158円)を下回りません。C 波は三波で構成され、2011年からの上昇チャンネルのセンターライン(↑①)が強いサポートになるでしょう。

一方②の場合には、現行 C 波(五波構成)はチャンネル下限(↑②)を目指し、より大きなドル安・円高になることが見込まれます。



【週足・エリオット波動分析】

22年10月(151.899円)からのA(↘)-B(↗)-C(↘)編成において、23年1月(127.158円)からのB波は161.938円(7/3)を以て完成しました。それはA波開始点を上回る、不規則天井(イレギュラー・トップ)です。

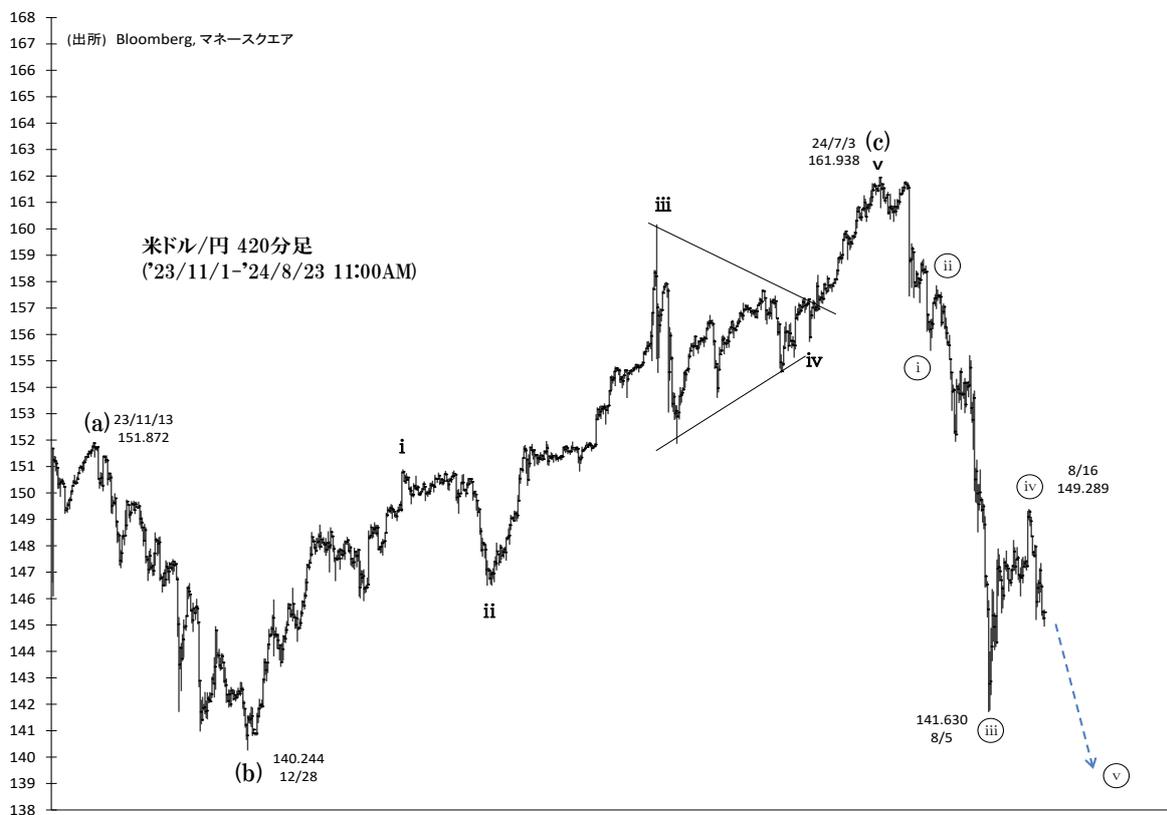
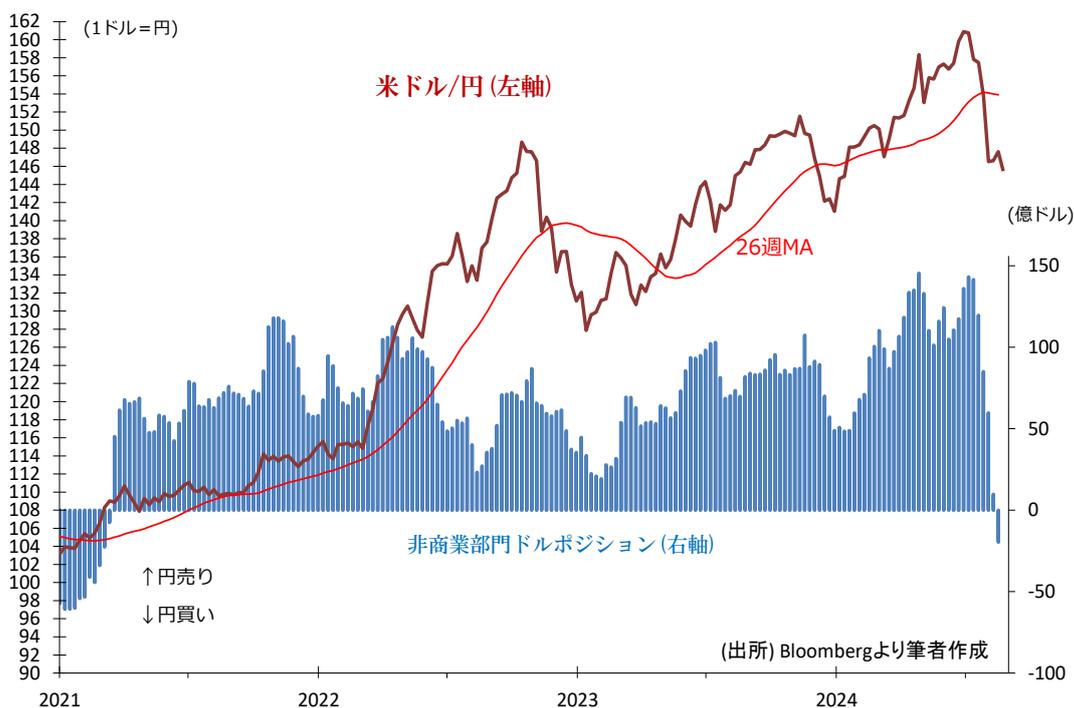
161.938円(7/3)からは、C波によるドル安・円高です。

C波の長さについては、A波が有効な「ものさし」になります。

A波の長さは24.741円(およそ25円)でしたから、C波の長さも同様と考えると、137円辺り(厳密には137.197円)がC波のターゲットです。

IMM通貨先物市場での非商業部門(主にヘッジファンド)のドルポジションは、7月2日時点で過去最大級の円売り越し(18.42万枚)でしたが、8月13日時点では一転、2.3万枚(19.7億ドル)の円買い越しに転じました。円買い越しに転じるのは21年3月以来のことです。円キャリーの巻き戻しは終了しました。

筆者の観測では、投機筋は26週MAをドル/円の強弱判定の目安としています。この先、26週MA(153.710円)をドル/円が下回っている限り、投機筋によるドル売り・円買いの動きは継続する可能性があります。

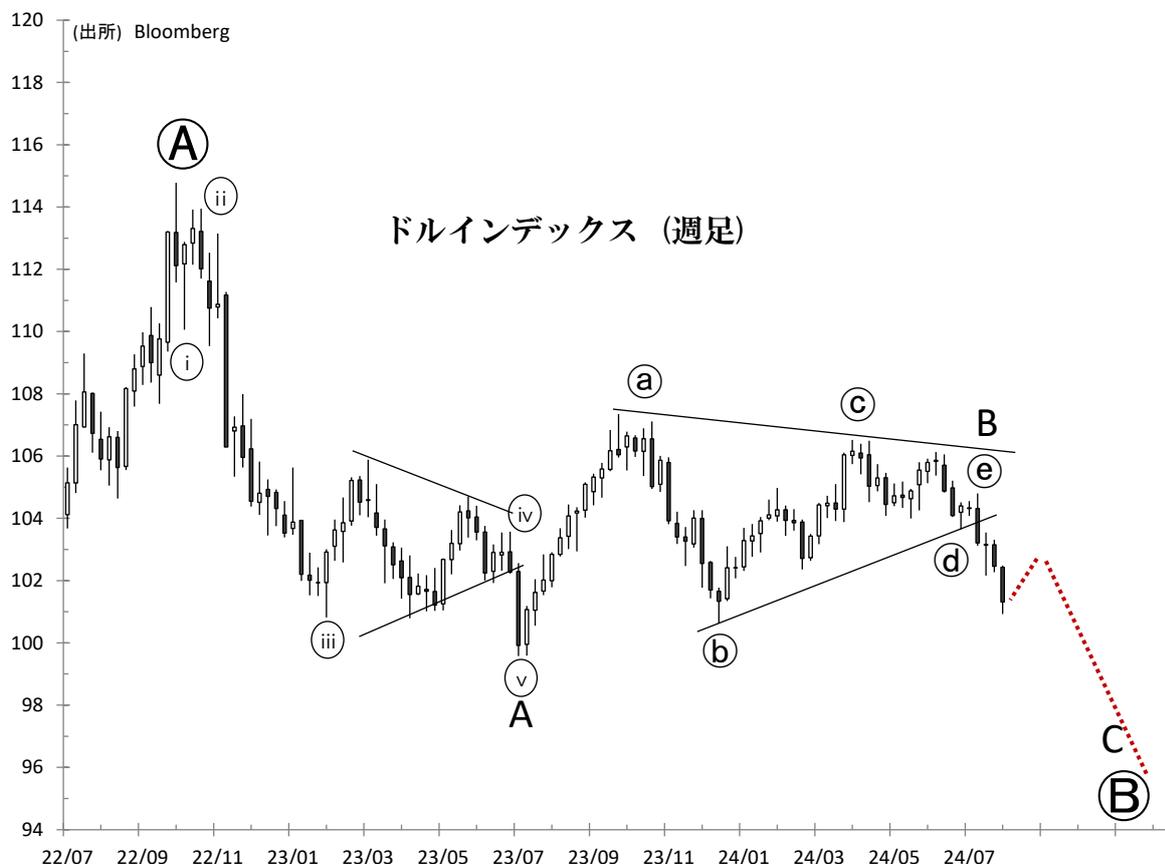


【時間足・エリオット波動分析】

161.938 円(7/3)からの C 波による下落は、「五波構成」になることが想定されます。

149.289 円(8/16)からはマル v 波の可能性があります、そうであればドル/円は近いうちに、141.630 円(8/5)を下抜き、昨年 12 月の 140.244 円を試すでしょう。

ドルインデックス (ドル指数)



【週足・エリオット波動分析】

22年9月高値(114.778)以来、ドルインデックスはA(↘)-B(↗)-C(↘)編成による下落基調にあります。23年7月安値(99.578)を起点とするB波は、[トライアングル(a)-(b)-(c)-(d)-(e)]を形成し、足元はC波によるドル安が進行中とみられます。

現行C波によりドル指数は、23年安値(99.578)を大きく下回る展開が想定されます。

※当レポートは、情報提供を目的としたものであり、特定の商品の推奨あるいは特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。

※当レポートに記載する相場見通しや売買戦略は、ファンダメンタル分析やテクニカル分析などを用いた執筆者個人の判断に基づくものであり、予告なく変更になる場合があります。また、相場の行方を保証するものではありません。お取引はご自身で判断いただきますようお願いいたします。

※当レポートのデータ情報等は信頼できるとされる各種情報源から入手したものです。当社はその正確性・安全性等を保証するものではありません。

※相場の状況により、当社のレートとレポート内のレートが異なる場合があります。

当社サービスに関する注意事項

・取引開始にあたっては契約締結前書面をよくお読みになり、リスク・取引等の内容をご理解いただいた上で、ご自身の判断にてお願いいたします。

・当社の店頭外国為替証拠金取引、店頭 CFD 取引および取引所株価指数証拠金取引は、元本および収益が保証されているものではありません。また、取引総代金に比較して少額の資金で取引を行うため、取引の対象となる金融商品の価格変動により、多額の利益となることもあります。お客様が差し入れた証拠金を上回る損失が生じるおそれもあります。また、各金融市場の閉鎖等、不可抗力と認められる事由により店頭外国為替証拠金取引、店頭 CFD 取引および取引所株価指数証拠金取引が不能となるおそれがあります。

・店頭外国為替証拠金取引、店頭 CFD 取引における取引手数料は無料です。

・取引所株価指数証拠金取引における委託手数料は注文が成立した日の取引終了後の値洗い処理終了時に証拠金預託額より、新規および決済取引のそれぞれに徴収いたします。手数料額は、通常 1 枚あたり片道 303 円(税込)、NY ダウリセット付証拠金取引および NASDAQ100 リセット付証拠金取引は 1 枚あたり片道 33 円(税込)です(ただし、建玉整理における委託手数料は無料です)。

・当社が提示するレートには、買値と売値に差(スプレッド)があります。流動性が低くなる場合や、天変地異または戦争等による相場の急激な変動が生じた場合、スプレッドが広がる場合があります。

・店頭外国為替証拠金取引に必要な証拠金額は、個人のお客様の場合、取引総代金の 4%以上です。法人のお客様の場合、取引総代金に、金融先物取引業協会が算出した通貨ペアごとの証拠金率(為替リスク想定比率)を基に当社が算出した証拠金率を乗じた金額となります。為替リスク想定比率は、金融商品取引業等に関する内閣府令第 117 条第 27 項第 1 号に規定される定量的計算モデルを用い算出します。なお、証拠金率(為替リスク想定比率)は変動いたします。店頭 CFD 取引に必要な証拠金額は、取引総代金の 10%です。取引所株価指数証拠金取引に必要な証拠金額は、商品ごとに当社が定める 1 枚あたりの必要証拠金の額に建玉数量を乗じる一律方式により計算されますが、1 枚あたりの必要証拠金額は変動いたします。

金融商品取引業 関東財務局長(金商)第 2797 号

【加入協会】日本証券業協会 一般社団法人 金融先物取引業協会
株式会社マネースクエア
